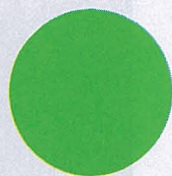


Ⅲ 楽しい緑づくり





サツキ



フジ



カリン



フェニックス

(1) 楽しい庭づくりのために

庭の歴史は非常に古く、人類の狩猟生活が終り、住居生活に入る頃から庭が始まりました。

その頃は、庭に薬草や野菜や花を植えたりして、いわゆる家庭菜園的な機能をもつものでした。

そのような庭づくりの起源がその後、変遷をたどり現在のような多様な庭づくりになってきたものであります。

ここでは、金沢の兼六公園のような大庭園には触れないで、せいぜい200㎡くらいの一般住宅の庭を考えてみます。

富山は、東京や大阪と違い、冬は寒気が強く雪が降ります。

しかしながら、このような気候風土も、富山の庭づくりには決定的なダメージを与えることはありません。とくに冬の雪吊りの風情などは、かえって雪の降らない地方に比較して、変化に乏しい冬の庭にアクセントを与えてくれます。

また、雪が溶けて春になると、長い冬から開放されて樹木の新芽立ちと復活の喜びを感じます。

このような気象条件が、庭の形や樹木、草などの種類にも影響して、富山の庭の特徴を創り出しているものといえます。

庭の形のうえからの種類として、池や築山のある山水庭と、池があっても築山のない平庭に大別されます。

また、眺める位置から庭の中を回って見る回遊式か、または小面積の洋庭などに分けられます。

日本には、古来から日本独特の固有文化があったはずで、それは、種々の考証から、非常に開放的で途方もなくにぎやかで楽天的なものでなかったかと推察されます。

それが、仏教伝来、とくに禅僧の渡来により変化があり、明治に入って西洋文化の伝来も、今日の日本文化に大きな影響を及ぼし、その投影が今日の庭園や建築に具体的に表れております。

今日の日本庭園は、桂離宮の庭園に代表されるように、日本人独特の自然観による洗練された形が、世界に誇る庭園美として今日まで保存されています。

私達が、庭の形を考えると、今までどこかで見たことのある庭園美が、いつしか心の底に残っており、その形を自分のものとしながらこれからつくろうとする庭の形を決定します。

その形は、何等約束ごとはありません。自由に、その家独特のものを考え

ればよいわけです。流派などに係わる必要は全くありません。

ただ、庭は樹木や草などを材料の一部とします。したがって、これが永遠の生命を保つようにしなければなりません。さらに、今日まで、試行錯誤を繰り返しながらでき上がった、形の美しさの法則のようなものがあります。それらを利用しながら、その家特有の庭をつくりましょう。

(2) 庭づくりの知識と条件

ア 現況を考える

これからつくろうとする敷地や建物が、どのような間取りで、どんな形でできているか、その家に住む家族の構成はどうなっているかたしかめます。

立派な庭をつくろうとすればするほど、考えがまとまらないのが現実です。

しかし、種々の要素や条件を系統的に分けて考えてみると、案外よい結論がでるものです。

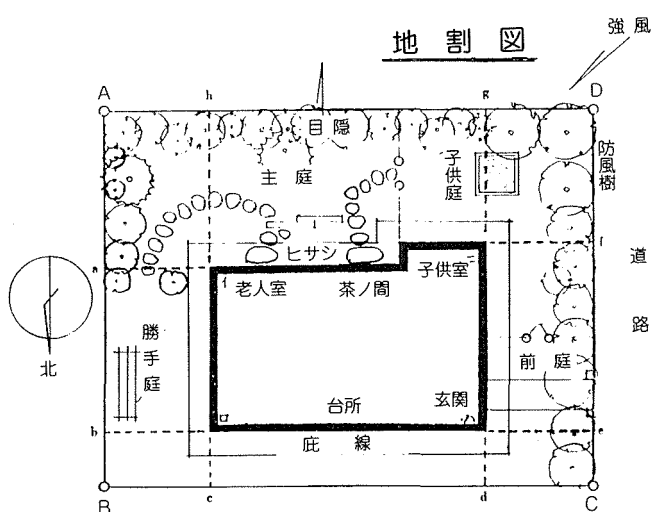
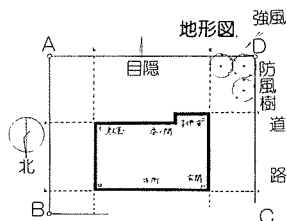
イ 地形

まず、第一に考えたいのは敷地の地形です。最近の住宅団地では長方形が多いようですが、建築家は大抵地積を有効に使うという考えから、建物の一辺を敷地の一辺に平行にします。

その結果、庭の敷地が細長い形となることが多いのです。

建物の最大の開放面が南向きとなり、奥行の浅い庭が多くなります。

富山では、春から夏にかけての強風は、ほ



とんど南西の風であり、この防風のため、敷地の南西隅に常緑樹を植えることが多い。

このような形は、まとめるのがいちばん困難です。反対に奥行の深い敷地はまとめ易い庭となります。

ウ 土 質

富山県の土質は、川の堆積土が多く、砂質壤土で一般に植物が育ち易く、やや酸性土が多い。

最近、山手に住宅団地をつくることが多くなってきましたが、粘土質が多く、重粘で排水の悪い場合も見られるようになってきました。

このようなところでは、砂土を入れ土壌改良剤を入れ、粘土質に強い植物の選定をすることを考えねばなりません。

また、粘土質では、高低差のある庭がつくり易くなり、地表が、砂質と異なり、雨が降っても移動しないのでコケが発生し易く、芝庭がくり易い。

エ 道 路

敷地周囲の道路も、庭でまとめる一要素です。

造園資材の搬入路にもなります。門から玄関までの前庭の形が、道路によってきまります。玄関への入口は、東南隅から北西隅までが福門入りといって縁起が良いといわれています。

また、反対に東北隅と西南隅は、鬼門入りといって嫌われます。

オ 日 照

隣接する土地に高いビルがあって一日中ほとんど日の当たらない敷地があります。

植物は、概して日陰地を喜ぶ種類は少ないが、耐陰性の強い植物を使わなければならない。

また、陰地はジメジメしているものですが、陰地でも乾燥する敷地があります。こんな場所は造園し難い敷地といわねばなりません。

カ 地下水

樹木を植えるには、植穴を掘らなければなりません。少し掘ると地下水がしみだす地下水の高いところがあります。こんなところは、普通の植え方で根腐れを起こして生育しないので、盛土をして植えます。

また、地下水位が低過ぎて乾燥しすぎるところもあります。最近冷暖房の普及で地下水を汲み上げることが多いため、樹木や草花が衰弱する現象がみられます。

いずれにしても、耐湿性、耐乾性の強い樹種を選ばなければなりません。

キ 借景と目隠し

借景とは、自分の庭に外部から何かプラスになるような景色がないか。例えば富山では北アルプスが見えるとか、富山湾や森林を、自分の庭の延長と

して設計することです。

せっかく、良い山の景色が見えるのに大木を植えて、外部の景色が見えないという例があります。

積極的に敷地外の景色を、自分の庭に取り込むようにします。

これに反して、外部に見せたくない風景がある場合、これを隠すことを目隠しといいます。

団地などの場合では、隣家の台所が見えたり、便所や勝手口が見えることがあります。

このようなとき、見えないように工夫しなければなりません。付近に高いビルがあり、いつも見下ろされている状態では、目隠し方法を考えねばなりません。

難しいのは、嫌な風景と山や海などの好ましい風景が同時に見えるところで、いずれかを犠牲にしなければなりません。

(3) 庭づくりのプラン

以上の条件を、できるだけ合理的に考えながら庭の平面形を考えます。

まず、方眼紙の一目を90cmとして敷地の形を写し、建物の形や方角線を入れて庭の形をどうすればよいかを考えます。

また、忘れずに軒下の線も入れます。軒下は雨露が当たらず、植物の生育は不向きです。よくこの部分を忘れて設計して、木を植えることができないことがあります。造園では、この部分を軒内といい、建物と庭を結ぶ重要な部分です。

ア 前庭

門または、入口から玄関までの部分を前庭といいます。

道路を通行する人とともに眺める部分で、一見しただけで、その建物に住んでいる人柄がしのばれる大切な部分です。

通路が主役になりますので、通路を中心に考えます。とくに前庭の中が狭い場合、通路を中心に考えますと、狭い部分を二分することになり左右どちらも使いにくくなります。

このときは、通路を曲線にするか、片方に通路を直線に寄せて一方を犠牲にします。通路は、できるだけ歩き易い構造にします。

イ 主庭

この部分は、庭で最も大切な部分です。

住む人の個性が、単的に表れる部分です。機能的には、眺めを中心にした庭座敷。老人には茶庭の形、子供には遊具などのある子供庭に分けて考えます。

座敷庭は、住んでいる人と来客が共に眺める部分です。池や流れのある庭、水のない枯れ山水。地表のコケを楽しむ植え込み庭。築山にするのか平庭にするのか、庭の平面形では様々です。

借景、目隠しも忘れてはなりません。

富山では、真南の池を嫌います。これは南は火の性で、相性が悪いという俗説からいわれたものです。

しかし、庭づくりには何等約束ごとはありません。自由に考えたいものです。

池や流れを考えると、それを横切る橋や庭石をどうするか、橋などは縦に見えては面白くありません、横に見て水の上に浮かんでいるように池や流れの形を考えます。

また、護岸の石組みでは、水面が狭く見えるようでは感心しません。手前はなるべく小さい石を用います。

流れの庭も、流れが縦に見えるようにしますと、奥行が強調され、高さの変化もつくり易い。樹木も流れの方向に傾いた形がよく用いられます。

雪見燈籠を設置する時は、なるべく水面に近く設置します。

ウ 勝手庭

庭の部分を機能的に考えるとき忘れてならないのは、主婦の縄張りになる勝手庭です。

前庭と主庭を除く部分が勝手庭です。日常の生活で最も大切な部分です。

洗濯物を乾かす物干場、簡単な切花用の花畑、新鮮な野菜畑、カキ、クリなどの果樹畑など主婦の使い易い形で考えます。

(4) 設計のまとめ

これまで、庭の機能や形について主に考えてきました。

以上の目的に沿って、樹木の位置や石の形を平面図に書き込みます。樹木の枝幅は円形に書き込み、真直ぐな木なら円の中心に、傾いた木なら円の中心から傾いた反対側の幹の中心を書き込みます。どんな庭でも、庭は生き物です。除草、水やり等の管理は常に要求されます。手入の行き届かない庭ほど見苦しいものではありません。逆によく手入の行き届いた、コケも見事な庭には自然に頭が下がります。



冒頭に、庭の広さは精々200㎡位と述べたのはこの理由からです。家族で管理できるのは100～200㎡の範囲です。それ以上広くなると専門職の手伝いが必要になります。

(1) 生垣とは

生垣は、隣地との境界や進入防止、防風、防音、目隠し、あるいは住宅や農地、工場などの囲いや仕切りとして、また気温の調節、空気の清浄化、市民にうるおいを提供するなど、その効用、役割も広い分野にわたっています。このように生垣は、実用面とともに、美観からもすぐれたものでなければなりませんので、計画的に進める必要があります。

生垣をつくるときに、まず第一に敷地全体の空間の中で、どのような種類、型にするかを考えます。第二に、環境条件を十分調査して樹種を決定します。地下水の高い所や、逆に乾燥の激しい所、日陰の所、風当たりの強い所、場所の狭い所、海辺に近いところなどがあり、これらの条件がいくつか重なっていることもあります。

(2) 樹木を選ぶ

ア 生垣用樹種として望ましい条件

- ・芽吹きが旺盛で、強い刈り込みに耐える萌芽力の強い木であること。
- ・枝や葉の分岐が密で、隙間がなく、さらに下枝の枯れ上がりが少なく長く保つ木であること。
- ・気候や土壌などの環境条件に適した木であること。
- ・樹勢が強く、病虫害に強い木であること。

イ よい苗木の選定

- ・根を見たとき発育が旺盛で、とくに細根が密生しているもの。
- ・枝の量は比較的少ないが、均整がとれており、葉は著しく大きくもなく小さくもなく、標準型をしているもの。
- ・節の間の発育がよく詰まっており、病虫害の加害がないもの。

ウ、生垣に使用れる樹種

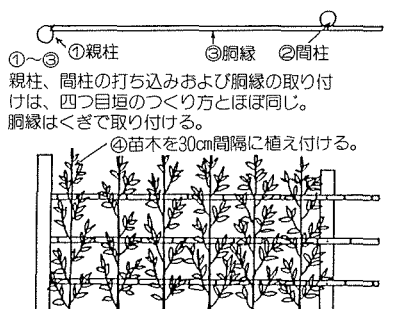
区 分	樹 種
常 緑 針 葉 樹	アスナロ、イチイ、イヌマキ、イチヨウ、カイヅカイブキ、カヤ、クジャクヒバ、コノテガシワ、シノブヒバ、スギ、タギョウショウ、タマイブキ、ニオイヒバ、ヒノキなど。
常 緑 広 葉 樹	アオキ、カナメモチ、アセビ、アベリア、アラカシ、イヌツゲ、ウバメガシ、オオムラサキツツジ、カンツバキ、クリシマツツジ、キンシバイ、クチナシ、ヒサカキ、サザンカ、サンゴジュ、シイノキ、シャリンバイ、シラカシ、ジンチョウゲ、チャノキ、ツゲ、ツバキ、ネズミモチ、ハクチョウゲ、ヒイラギ、ヒイラギモクセイ、ピラカンサ、マサキ、モチノキ、モッコクなど。
落 葉 広 葉 樹	アジサイ、イボタノキ、ウメモドキ、カエデ、カラタチ、コデマリ、シモツケ、ドウダンツツジ、バラ、ヒュウガミズキ、ボケ、マユミ、ムクゲ、ユキヤナギ、レンギョウなど。
つ る 植 物	スイカズラ、セイヨウキヅタ、ツタ、ツルウメモドキ、ツルバラ、テイカカズラ、ビナンカズラ、ムベなど。
タケ、ササ類	オカメザサ、カンチク、クロチク、ホテイチクなど。

以上のほかに、海岸地に適する樹種、花や実の美しい樹種、枝葉にとげがある樹種、秋の紅葉の美しい樹種、新芽の美しい樹種などがあります。

(3) つくり方

ア つくり方による区別

- ・枝梢誘引生垣…まず竹垣（四ツ目垣）をつくって、苗木の枝梢を竹垣に誘引します。
- ・押縁締め生垣…苗木と立子を胴縁とではさむように結び付け苗木を固定します。



枝梢誘引生垣



押縁締め生垣

イ 単植生垣と混植生垣

- ・単植生垣…1種類の樹種でつくられた生垣です。
- ・混植生垣…2種類以上の樹種でつくられた生垣で、混ぜ垣ともいいます。

(4) 手入れ

生垣の管理には、苗木を植え付けてから一応の完成をみるまでの手入れと、完成後の維持管理があります。

ア 苗木植え付けから完成をみるまでの手入れ

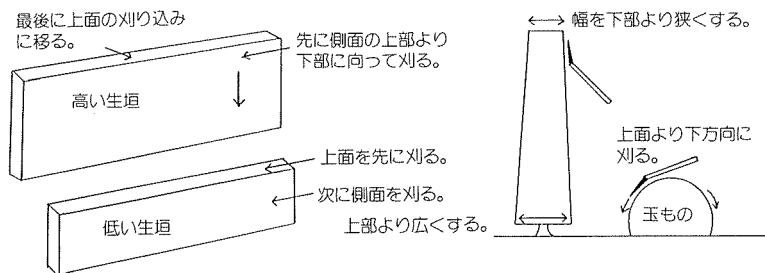
- ・一般に庭木は、頂部優勢といい伸長する力が上部が強く、下部が弱いという性質をもっています。このため予定の高さに生長したら、なるべく早目に梢部をせん定します。

イ 整枝、せん定

生垣は全体をかなり強く刈り込むため、生長の盛んな時期に刈り込むと樹勢が大変弱ります。そこでその時期を避けて、1年に2回行います。

- ・1回目…春の新梢が伸び切って組織が充実した頃の梅雨期に行います。
- ・2回目…夏から秋のはじめ頃に徒長枝、土用芽が伸びて樹形を乱すため晩秋に軽く刈り込み、不揃いを整えます。
- ・生垣の型を大きく修正する場合は、早春の新芽が活動をはじめる前の休眠中に行います。

ウ 生垣の刈り込み順序と刈り込みバサミの使い方



エ 根切りと施肥

生垣は年数が経つと列植方向の根が交錯し、また道路側に寄ってつくられることが多いので、根が片方にのみ伸長し、ついに老化し、地中養分も欠乏してきます。そこで生垣に沿って溝を掘り、根切りをします。溝には堆肥や腐葉土、油粕などの有機質肥料を施して新根の発生を促進します。実施は秋から早春の新芽の動く前に行います。できれば2～3年に一度行いたいものです。

オ 枝の誘引

枝がまばらであったり、虫や病気などで枯れて穴があいている場合は、近くにある枝を引っ張り、穴をふさぐ作業をするなど、病虫害防除とともに常に手入れが必要です。

Q & A

Q、切り花を長持ちさせるには、どうしたらよいか。

A、生け花として、花を長持ちさせるには、

- 1、花をさす前、たっぷりと入れた水の中で、斜めにハサミで切ります。斜めに切るのは、吸上面積を広くするためです。
- 2、花びんの水を、できるだけ毎日取り替え、全体に霧を吹いてやります。枯れてきた花や葉を取り除きます。
- 3、花をさかさにして、葉裏から水をかけてやって生き返らせてやります。
- 4、全体に霧を吹いて、新聞紙で包み、外に出して夜露に一晩あてても花はいきいきします。

Q & A

Q、バラの10年ほど経ったものをもっているが、最近樹勢が衰えてきました。バラの寿命はどれくらいか。

A、バラは枯らさないで何十年もおくことが可能ですが、大抵の場合は5～6年で植え替えます。

今の西洋バラは、能力以上に咲かされているのです。よく育ちますが、山野の植物のように逆境に強くありません。

英国風の完全主義を基盤につくられたバラは、咲かないと衰えるものです。古木に照れくさそうに咲いているバラはみじめです。

バラのためにも、若木と取り替えてやりたいものです。

盆栽は、老若男女を問わず、大衆的な健全な趣味として、一般家庭にまで進入し、庭先や窓辺などによく見かけられます。盆栽は手がかかり過ぎるし、ご隠居様がお金持ちの道楽だと考え、一般には縁遠いものという一昔前の考え方をすてて、だれでもできるものです。

お祝いに盆栽を一鉢いただき、手入れを知らないため、枯死寸前の状態になりどうしたらよいか、よくこのような相談があります。

盆栽の育て方は、現代人の常識としてぜひ心得て欲しいものだと思います。そのためには、1鉢か2鉢でも自分で育ててごらんになることです。最低の知識があれば、当初案じていたほど育てにくいものではありません。盆栽のよさがわかって、おもしろ味も自然に加わってくるものです。

(1) 育てやすい樹を選ぶ

盆栽は多種多様ですが、そのなかで自分の好みにあうものを選びましょう。まづ選ぶときは、性質が丈夫で育てやすく、あまり手のかからない小型の樹を選ぶことが大切です。

高さ30cm以下で、場所をとらず、持ち運びや管理が容易で多年にわたり楽しめるものを選びます。

- ア 四季を通して緑の葉があるもの。ゴヨウマツ、クロマツなど。
- イ 花の美しいもの。ウメ、カイドウ、サツキ、サルスベリ、ザクロ、ツバキ、ボケなど。
- ウ 春の芽出しと秋の紅葉の美しいもの。(秋) ニシキギ、カエデ、モミジ、(春) ケヤキ、ブナなど。
- エ 美しい実が楽しめるもの。ヒメリンゴ、ベニシタン、ウメモドキ、ピラカンサなど。

(2) 盆栽を育てるポイント

ア 植え付け

前にあげた種類の樹を盆栽に育てるには、まず小苗の若木をこぶりの鉢か、浅鉢に植えます。小鉢には1本、浅鉢には2～3本群植します。植える時期は、春芽出しのころがよい。

植えたら、ジョウロで水を十分やります。しばらく風当たりの少ない日の当たるところに置き、乾いたら水を与えるようにします。半月ほどたったら、日当たりのよい風通しのよいところへ移し、水ぎれのないように灌水を続けてやりましょう。

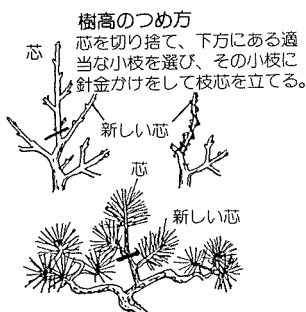
肥料は、植え替えした3週間くらいから、固形の油粕を少しづつ与えます。

液肥は薄いものをやり、濃いものはいけません。時期は春から梅雨ころまでと秋です。

イ 保護対策

新芽が伸び始めるころから、アブラムシ、アカダニ、カイガラムシ、シンクイムシなどが発生しますので、見つけ次第殺虫剤で退治します。

伸びた新芽は、6月上旬ころ芽先を摘みとり、混みすぎた枝をすかしてやります。



夏の暑いときは、マツ以外は、午後日の当たらない涼しい場所において、毎日、日没後に葉の先から水をかけてやります。

植え替えは、マツ類は3年に1回、その他は毎年春先に行って、3年～5年と日がたつうちに自然に樹姿がまとまってきます。

ともあれ、盆栽はけっしてむづかしいものではありません。素人でも、けっこう育てられ楽しめるものです。

(3) 盆栽の管理

盆栽は、そうやすやすと枯れるものではありません。愛情をもって必要な手入れさえしていれば、私達よりはるかに寿命が長く一生の友になるのです。

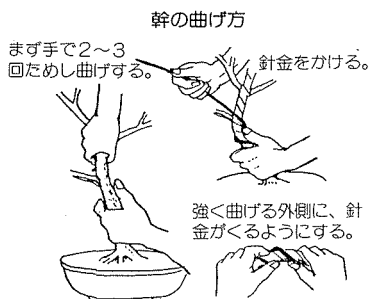
ア 植え替えの仕方

鉢に長く植えたままにしておくと、鉢いっぱい根が張り、それ以上根が張る余地がなくなるので、健全な生育は期待できませんから植え替えが必要になります。

まず、樹を立て、正面から樹形全体をよく見て、混み過ぎた小枝や長過ぎる枝、枯枝などを切りすかし樹形を整えます。さらに裏側から見ていない枝を切り取ります。

そのあと、樹を鉢からすっぽり抜き、竹ハシでほぼど土をほぐして落とします。古い土からはみ出している根を、ハサミで全部切り取ります。

植え土は、水はけと水もちがよく、あまり肥料分のない清潔なものを使います。



マツ類なら、赤玉土 6、粗砂 4 の配合、雑木なら赤玉土 6、腐葉土 2、粗砂 2 くらいの割合です。サツキだけは鹿沼土 2〜3、赤玉土 1、水ゴケを混ぜた土が最適です。

まず、鉢の底に目の細かいビニール網の小さく切ったものを入れて土どめをし、その土へ小砂利かゴロ土を入れます。次に植土を少し入れ、樹の表と鉢の前後を合わせてがっちり止め動かないようにします。

古土の回りに植土を 2〜3 回に分けて入れ、そのつど竹ハシでよくつついてすき間のないようにし、コテなどで上から押さえて植え終わりです。

水を植土から十分やり鉢底から水が流れるまでやります。2〜3 日風当たりの少ない日当たりのよいところに置いて、一般盆栽と同じに扱います。

(4) 水の与え方

盆栽の置き場所には、必ず水ガメとジョウロを用意し、いつも汲みおきの水があるようにしておきます。

鉢の土の乾き具合をみて、乾いたつど水をやるのが理想的です。次のように朝夕定期的にやってもかまいません。

1〜2 月 2〜3 日に 1 回昼に少量づつ。

3 月 上旬は 2〜3 日に 1 回少量づつ、中〜下旬 1 日 1 回少量づつ。

4〜6 月 1 日 2 回 普通に。

7〜8 月 1 日 2 回 多量に、日没後葉水を与える。

9 月 上旬は 1 日 2 回多量に、中〜下旬 1 日 2 回通常に。

10 月 1 日 2 回普通に。

11 月 上旬は 1 日 2 回少量づつ、中〜下旬 1 日 1 回少量づつ。

12 月 1 日 1 回少量づつ。

(5) 肥料の与え方

生育条件や肥料の種類によって違いますが、一般的に使われる液肥は、油粕 1、水 10 の割に混ぜて、水ガメで十分腐熟させた上ずみ液をさらに 10 倍

の水に薄めて使います。

施肥回数は、4月に1回、5月に2回、9月に2回、10月に2回与えます。一回の量は、30cm内外の小盆栽1鉢に0.15ℓ、普通盆栽は0.2ℓ与えます。

玉肥は、油粕の粉末を水でよく練り、3～4cmのダンゴに丸めて平箱に並べ、雨のかからない薄暗い場所で発酵させたものを使います。花木や実物に与える場合は、液肥でも玉肥でも2割くらいの骨粉をまぜると花つきがよい。

玉肥の与える時期は、液と同じです。1鉢に1回の量は、小盆栽2個、普通のもの3～4個与えます。

(6) 置場所

なるべく日当たりと風通しのよい場所に丈夫な棚をつくり、その上に間隔をあけて置くのがよい。とくに雑木類は夏の西日を嫌うので、なるべく日陰になるところを選びます。

風当たりの強いところは、鉢を台や棚にしっかりしばりつけておきます。ときどき鉢の向きを変えて全体に光が当たるようにします。

冬は鉢土や枝先が凍らないように、軒下や縁側や霜よけの下へ入れてやります。

(7) 上へ進もう

今までは、盆栽の初歩のことについて書きましたが、幼稚園から大学まであります。老樹大木の樹姿を、盆栽上に再現するのは夢だと思います。

人はそれぞれ、素質とかいろいろの事情があり、どこまでやるかは自由です。しかし、初歩段階でやめるのは、普通の鉢植えと大差がなく、芸も妙味ありません。幼稚園で積んだ体験を、もう少し進んで小学校を終え中学程度までつめて、盆栽の名にはじない樹姿をつくるようになりたいものです。

別にむづかしいことではなく、幼稚園程度の手入れのできる人ならどなたでもできることです。ぜひ一步、もう一步進めて、よい盆栽を育ててみましょう。

私達の日常生活の中で観葉植物は、家庭では、玄関、応接間、居間、食堂、廊下、トイレ、ベランダまたは、オフィスのロビー、店のショーウィンドーなどに多く利用されています。

現在、一般的に使われている種類は、約2千種を下らないといわれています。その代表的な種類について、楽しみ方や管理について説明します。

(1) ゴムノキ (クワ科)

我が国で栽培されているものは、約30種で一般に普及されているものは10種ほどです。

ア 栽培管理

- ・温度 熱帯原産ですから、5℃位までの低温に耐えます。適温は10～15℃です。
- ・日照 日光を好みますが、梅雨明けから9月初めまで日陰に置きます。低温期は十分日光を当てます。
- ・用土 肥沃な土6に腐葉土2、川砂2位とします。
- ・ふやし方 取り木や挿し木によります。時期は6～7月に行います。
- ・水やり 土の表面が乾いたら、水を十分やります。夏は毎日やります。
- ・肥料 夏の生育期に2～3回置き肥をします（油粕、骨粉）。
- ・植え替え 生育が盛んで、すぐ鉢が根でいっぱいになります。2年に1回は必ず鉢を大きくして植え替えします。時期は5～6月に行います。
- ・害虫 アカダニにはアカル粉剤、カイガラムシにはスミチオン乳剤、アブラムシにはオルトラン乳剤により駆除します。



イ 代表的な種類

・インドゴムノキ (フィカス・エラスティカ)

幹はまっすぐに伸び、葉は長だ円形で葉肉は厚く、光沢のある濃緑色で、新葉を包む苞が赤くて美しい。

この変種に、斑入りインドゴムノキがあります。葉はやや丸味をおび、葉の縁や葉脈にそって黄色の斑が入ります。

・ロブスターゴムノキ (フィカス・エラスティカ・ロブスター)

インドゴムノキに比べ、生長が早く葉肉は厚く、しかも湾曲し、幹のところどころから根を出し繁殖は簡単です。

- ・デコラ、ゴムノキ（フィカス・エラティカ・デコラ）

葉は濃緑で丸味がある。

- ・カワイゴム（フィカス・リラータ）

葉は軍配形で波状をしており、他の種類より寒さに弱い。

- ・ベンジャミンゴムノキ（フィカス・ベンジャミナ）

葉は他のゴムノキに比べ小さく、枝がたれる性質があります。斑入りもあります。

ウ その他

- ・下葉が落ちるのは、光線の不足です。また、冬の低温期は肥料は不要です。

(2) シュロチク、カンノンチク

シュロチクもカンノンチクも、古くから観賞用として栽培されている常緑性低木です。熱帯系の植物ですが、樹姿全体が和物的な感じがあります。性質も強く、県内では鉢植えとして楽しまれています。



ア 特徴

- ・シュロチク（やし科、中国南部原産）

一枚の葉は5～10枚に分かれ、葉幅は細く2～3cmで緑色です。

シュロチクの斑入り種があり、観賞価値が高く園芸品種があります。鉢で観賞する場合は、5～15号鉢で、樹高は50～150cmぐらいが良い。

- ・カンノンチク（ラピス・フラベリフォルミス、中国南部原産）

葉は、手のひら状で光沢のあるつやつやした濃緑色です。茎は竹のような節があり、毛のようなもので覆われています。約100種近くの園芸品種があり、葉形、斑入りなどに特徴があります。

イ 栽培管理

- ・温度 冬は3℃以上あれば良い。高温の時は良く生育します。
- ・日照 夏場は半日陰に置きます。直射日光に当てると葉焼けを起こします。
- ・用土 荒い川砂植えて良く、腐葉土を1割位混ぜても良い。
- ・ふやし方 株分けでふやしますが、葉が4～5枚でた子株を使用します。時期は5～6月が最適です。
- ・水やり 川砂植えであるため、いつも水切れにならないようにします。夏の晴天の日は1日2回、それ以外は、土の表面が乾ききったら水やりをします。また時々葉水をかけてやります。
- ・肥料 川砂を主体とした用土のため、油粕の置き肥またはI B化成肥料を5月、7月、9月に施します。またハイポネックスの液肥も施します。

- **害虫** カイガラムシがつくことがあるので駆除します。
- **その他** シュロチクの葉先が黄色くなるのは、冬の寒さのためです。きびしい寒さにあわせないようにします。

ウ 代表的な種類

- **小判(こばん)** 葉は、濃緑色、葉肉が厚く幅が広く下に垂れさがります。葉の形が小判に似ています。
- **達磨(だるま)** 葉は、光沢のある濃緑色で円形状になり、風車のような感じです。
- **姫達磨(ひめだるま)** 実生からでた変種で葉肉は薄く、葉先は尖って、内側に巻きこみ、しとやかな感じがします。
- **太平殿(たいへいでん)** 幹が太く、節間がつまり、葉幅が広く濃緑色です。

(3) ヤシ類 (ヤシ科)

ゴムノキとともに観葉植物を代表するものです。種類は3000種以上で、南九州にも自生しています。鉢用のものは小型の種類が多く、葉が羽状のものが人気があります。



ア 栽培管理

- **温度** 種類によって差があるが、観賞用は7～10℃位で、最低温度は一時的ならば0℃近くでも枯死しない。苗は低温に弱いので注意しましょう。
- **日照** 日光に良く当てますが、盛夏時は直射日光を避け半日陰に置きます。
- **用土** 排水の良い土に、腐葉土と川砂を20～30%混ぜたものを用います。川砂だけで植え込んでも育ちますが、肥料不足になります。
- **水やり** ヤシ類は生育が盛んで、夏の生育期は、1日2回、春と秋は1回、冬は土の乾き具合を見てかけます。
- **肥料** 油粕の置き肥を生育期の5～9月に、他の観葉植物より多めに与えます。
- **害虫** カイガラムシがつくことがあります。カルホス乳剤を6～7月に2～3回散布して防除します。

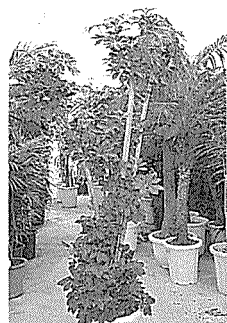
イ 代表的な種類

- **フェニックス** (フェニックス・カナリエンシス、原産地カナリー諸島) 寒さに対してもっとも強い。幹は太く短く、葉は頂部でそう生します。葉はやや硬く、下部の葉は退化してトゲのようになります。
- **アレカヤシ** (クリサリドカルプス、原産地マダガスカル) 高さは3～6mの矮性種です。枝は根元から分岐して株立ちになります。葉は羽状で淡緑色、葉柄は長さ40cm、黄色の地に褐色の細かい斑点があります。

- **ケンチャヤシ**（ホウエア・ベルモレアーナ、原産地オーストラリア）高さ4～5 m。葉の美しさはヤシ類で最高です。葉は長さ80～90cm、幅2～3 cmで葉の先は尖り、色は濃緑色です。生育は遅い。
- **テーブルヤシ**（コリニア・エレガンス、原産地メキシコ）高さが2 mくらいの矮性種です。幹は細い。葉は長さ50～70cmの羽状で、小葉は長さ20cm、幅2～3 cmで長だ円形。葉色は光沢のある濃緑色です。
- **フェニックス・ロベニー**（日本名シンノウヤシ、原産地インド、アッサム地方）室内装飾用として人気があります。繊細な羽状葉で、葉がやわらかく女性的な優しさがあります。寒さにも強い種類です。
- **その他** ワシントンニア・ロブスター（しゅろに似たヤシ）、マスカーナ・ラゲニカウリス（幹がとっくり状になる。）

(4) シュフレラ（別名カボック、ウコギ科）

和名はヤドリフカノキというように、他の木によりかかって生育します。葉はヤツデを小型にした感じで、最近非常に人気があります。



ア 栽培管理

- **温度** 沖縄から台湾へかけての原産なので、高温を好むが、比較的低温に強く3～5℃で管理をします。モミジバアラリアは、10℃が必要です。
- **日照** 日当たりでよいが、夏は日陰に置きます。
- **用土** 水はけが良ければ、土を選びません。粘質土が多い場合はパーライトかバーミキュライトを混ぜます。砂質土では腐葉土かピートモスを混ぜます。
- **肥料** 生育期（5～9月）に、油粕置き肥を3回ほど施します。
- **水やり** 湿った状態にすると生育が良い。夏は葉水をします。冬は温度が保てない場合乾かし気味にします。
- **植えかえ** 小株の場合は、毎年鉢を大きくします。時期は5～7月に行います。根が固まった状態になれば、固まった根は切り捨てます。
- **病虫害** ほとんどありません。

イ その他 自立で直立する性質が弱いので、必ず支柱をたてます。芽吹きがよいので、どこで切っても、根が弱っていない限り間違いなく芽をだします。

ウ 代表的な種類

- シュフレラ・アルボ・リコーラは、細長い茎が立ちあがり分岐して株立ちになる。葉は互生して濃緑色の掌状の葉は葉柄が長く、小葉は10枚位に分

かれ細長い。

- ・ディジゴテヘカ・エレガンティッシマは、直立する茎にモミジ葉状の葉がつき7～11枚に分かれる（モミジバ・アラリア）。

(5) ヘデラ

つる性の常緑低木種で、茎の節から気根をだして、他の植物などに付着して上に伸びていきます。熱帯植物でないのに寒さにも強く、日陰でも徒長せず、支柱にはわせた鉢や吊り鉢にも向くため根強い人気があります。



ア 栽培管理

- ・温度 特に保温の必要はないが、冬の間は室内に入れます。
- ・日照 日当たりでも、日陰でも良く育ちます。
- ・用土 土質を選びませんが、川砂7、腐葉土3にします。苗のときは水ごけ単用植えにします。
- ・肥料 油粕の置き肥と液肥を月に1回追肥します。

イ 代表的な種類

- ・ヘデラ・ヘリックス（日本名セイヨウキヅタ、別名アイビー2）

葉は長さ10cmで3～5に分裂して、アサガオのような葉です。葉の色は光沢のある濃緑色です。耐寒力は強く、冬は保温の必要はありません。

なお、変種にヘデラヘリックス・トリカラー（ニシキヅタ）があり斑入り種です。

- ・ヘデラ・ヘリックス・グレーシャー（ダイヤモンドヅタ）

葉は長さ2～3cmほどの小さいもので3～5に分裂して、葉色は緑色の地に淡黄色の斑と覆輪がはいり、葉肉は薄く、茎も細い。

- ・ヘデラ・ヘリックス・ゴールドハード 小型種の代表的な葉は、濃緑色で葉の中心部に黄色いハート形の斑が入る。

(6) クロトン（コーディーム・パリエガーツム、トウダイサ科）

観葉植物のなかで、最も色彩の変化があります。葉の色が原色で模様に変化に富んでおり、葉の形もいろいろあります。

葉の色は緑、桃、橙、赤紫、褐、黄色などがあります。

葉の形は、広葉、細葉、らせん、飛び葉、針葉系などがあります。



ア 栽培管理

- ・温度 年間をとおして日光に良く当てます。また温度の急激な変化は良

くありません。冬を越すには10℃以上を必要とします。生育適温は20℃以上です。

- **用土** 肥沃な土8に腐葉土1、川砂1の割合とします。幼苗の時は水ゴケ植えがよい。
- **水やり** 夏は十分水をかけ、冬は少なくし、夜は土が乾いている状態にします。
- **肥料** 高温時期によく生育するので、5～9月に油粕の置き肥を2～3回のほか、液肥で追肥を施します。
- **害虫** 高温、乾燥時期に、葉のうらにダニが発生します。スミチオン乳剤で消毒するか、葉水をよくかけると防ぐことができます。

イ 代表的種類・系統

- **アケボノ・クロトン** 広葉系の優良種で、株は大きくならず、葉は長さ10cm、幅5cmで葉は薄く、周辺が濃緑色、中央が淡紅色で新葉は黄緑色で美しい。日本でつくりだされた。
- **ハーベスト・ムーン** 広葉系で株は大きくなり、葉は15cm以上で、切り葉は生け花の材料に良く使用される。葉色は濃緑色で葉脈だけが黄色くなる。
- **インデアン・ブランケット** 大型で葉はやや細長く20cm以上になり、黒緑色で主脈周辺が赤橙色となります。
- **細葉系** 葉が長い系統のもので、長さ20～40cm、幅2～5cmになる。色彩は変化に富み美しい。
- **らせん系** 細葉系に似た葉で、下垂してらせん状にねじれる。葉色は濃緑色で、葉の縁が橙色になるものや、黄、紅、紫などの斑が入るものもあります。
- **針葉系** 葉の形が針に似ており、長さ10～25cm、幅3～10cmで、葉脈が黄や赤色になるものがあります。

(1) マンリョウ (万両) (ヤブコウジ科、常緑小低木)

濃緑色の葉に鮮紅色の実が映え、冬から春まで果実がつきます。

日本では、江戸時代すでに斑入り品種が多数栽培されていた。



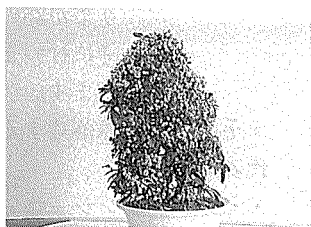
- ・ **自生地** 関東以西から四国、九州、沖縄の樹陰に自生する。
- ・ **性質** 暖地性で、日陰を好み、直射日光を嫌います。本県では戸外で越冬させるのは困難で、室内で管理します。
- ・ **ふやし方** 品種ものは、接ぎ木、挿し木、取り木を行います。
普通は3月から4月に種子を採取し、果肉を良く洗い、すぐまきます(取りまき)。用土は特に選びません。1年目はそのまま管理し翌春に鉢植えにします。3年か4年で開花結実します。
- ・ **用土** 湿った肥沃な土を好みます。赤玉土7、腐葉土3程度とします。
- ・ **施肥** 油粕と骨粉を混ぜ発酵させた肥料を、4月と6月に施します。
生育期間は肥切れしないようにします。
- ・ **水やり** 生育期間は、表土が乾かないようにします。冬は3日に1回でよいでしょう。
- ・ **害虫** アブラムシ、カイガラムシが発生します。エカチンかカルホス乳剤で防除します。
- ・ **植え替え** 4月から6月に行います。鉢の底から根のでているものは、ひとまわり大きい鉢に根をほぐし1/3くらい切りつめて植えます。
- ・ **種類** マンリョウ (赤い実)、キミノマンリョウ (黄色の実)、シロミノマンリョウ (白い実)、オオミマンリョウ (大きい実) などがあり、葉に白い斑の入るものや、波状のものなどがあります。
斑入りなどの品種ものは、性質がやや弱い。

(2) ピラカンサ類 (バラ科、常緑低木)

ピラカンサ類はトゲがありますが、実のつきが良く鉢物として多く利用されています。その他、庭木、生垣、切り枝として利用します。

- ・ **性質** 樹勢は盛んで耐寒性があります。日当たりを好み、日陰では実つきが悪くなります。他にローズデール (大実の園芸種) もあります。

- **ふやし方** さし木は春先には前年生の枝を、6月から7月に今年の枝を挿します。実生は果肉を取り除いて春にまきます。
- **用 土** 土質を選びませんが排水を良くします。
- **施 肥** 油粕や配合肥料を施します。
- **水やり** 生育期間中は十分にやります。冬の間も常緑樹ですので、3日に1回午前中にやります。
- **害 虫** アブラムシ、カイガラムシが発生するので、スミチオン乳剤かカルホス乳剤を、発生初期10日間に1度散布します。
- **その他** 生長が早いので、放任しておくと樹形が乱れます。萌芽力が強いので強い剪定をしても、どこからでも芽を吹きます。ムクドリ等が果実を餌にします。



代表的な種類

- **タチバナモドキ** (別名ホソバトキワサンザシ) 中国原産で、日本へは明治時代に渡来した。高さは2～4mになります。果実は橙黄色に熟します。葉は細長く革質です。
- **トキワサンザシ** 西アジアの原産で、日本へは明治時代に渡来した。果実は鮮紅色に熟します。葉は卵形で濃緑色で光沢があります。
- **ヒマラヤトキワサンザシ** (別名インドトキワサンザシ) ヒマラヤ原産で、日本へ昭和初期に渡来した。高さは2m位になります。葉は長だ円形で革質である。果実は橙紅色に熟します。

(3) ミカン類 (ミカン、ユズ、キンカン)

- **植え付け** 4月から5月に植え付けをします。深植えにならないよう、苗木の接ぎ木部を必ず地表にだします。
- **温 度** 年間をとおして日光を良くあてます。また温度の急激な変化は良くありません。冬を越すには10℃以上を必要とします。
- **肥 料** 植え付け、植え替え30日後ぐらいに、有機配合肥料 (N.P.Kを含む。) を10号鉢で10gほど置肥します。
- **水やり** 春から秋まで乾かさないように十分に水やりをします。冬は10日に1回ほど行います。
- **隔年結果** ミカン類は隔年結果がおき易いので、豊作の年は、あまり多く実をつけさせないため摘果します。摘果の目安は果実1個当た



り葉が25～35枚必要で、生理的な自然落果が終わる8月上旬以降に行います。また果実を収穫後、お礼肥として化成肥料を施します。

- ・その他 春落葉するのは、冬の寒さか乾燥によることが原因です。

代表的な種類

- ・ミカン（ウンシュウミカン）

温暖な気候を好み、最低温度－5℃以下になると栽培が困難です。

鉢物の場合室内に入れるようにします。果実は食用になります。

- ・ユズ

ミカン類のなかで、耐寒性があり、冬屋外でも栽培できます。

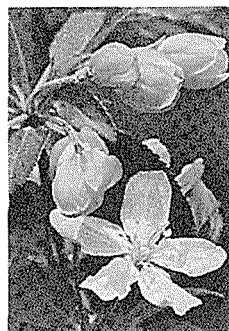
結実は10年たっても実がならないこともあります。ただしカラタチ台木に接ぎ木したものは早く結実します。

- ・キンカン

ユズ同様耐寒性があり病気、害虫もほとんどありません。食用だけでなく観賞用としても優れている。

(4) ヒメリング（バラ科リング属）

鉢物として栽培されているヒメリングは、中国原産で別名イヌリングと呼ばれています。このほかエソコリング、アルプス乙女等の小型のリングを総称していうこともあります。果実がさらに小型のミヤマカイドウがあり、ハナカイドウを含めてカイドウ類を区分します。



ア 実つきを良くするために

ヒメリングで花つきが悪く、実がならない原因は次のようなことが考えられます。

- ・短枝がない。 木が若い、強剪定のため徒長枝ばかりになっている。鉢が大きすぎるため、水や肥料が豊富で生育が盛んである。
- ・短枝があっても花が咲かない。 日照不足か、花芽分化期（7月から8月）に水不足。
- ・実った短枝には花芽がでない。
- ・花が咲いても実がならない。 1鉢しかないか、昆虫がいないので受精しない（自家不和合性が強い）。)

イ ヒメリングの実つきを良くする方法

- ・開花期がほぼ同じで花粉の多い異種または異品種を近くで栽培し、開花期に薬剤散布を止めて、昆虫の活動を活発にします。
- ・人工受粉を行います。リングの仲間であれば、どんな花粉を用いても良いわけではなく、他家受粉（別の種、別の品種で受粉する。）が原則です。ミ

ヤマカイドウの花粉は優れています。

ハナカイドウは花粉の不能なものが多く、受粉樹にはむきません。

- **用 土** 赤玉土、桐生砂、鹿沼土を中心に川砂、ピートモス、腐葉土を加える。肥料は秋から冬に元肥を施し、開花期には施しません。
- **置き場所** 日当たりの良い場所に置きます。夏は葉焼けを防ぐため、やや遮光します。
- **水やり** 水を好み乾燥を嫌います。とくに開花から実止まりまでの1ヶ月間は、絶対に水をきらないようにします。

豆知識

。鉢植の花が咲かない

鉢を買ったとき花芽があったが葉が落ちてしまった。隣の家では花がきれいに咲いているが私の家のものが咲かない。このようなことをつきつめて花の咲かない原因を整理してみると、

(1) 剪定による原因

花芽の分化期以降に剪定や整枝をすれば、花芽を切ってしまうので咲かないのがあたりまえです。

花芽の分化期に剪定や、切りつめるのではなく、枝を間引くようにして行います。ツツジ、ツバキ、アジサイ、アザレヤなどがよく失敗します。

(2) 肥料が原因

一般の肥料とくに、窒素質肥料を多く与えると花芽がつきません。植物は弱ってくると、子孫を残さねばならないため花を咲かせ種子をつくるわけです。肥料のやりすぎは生育が旺盛になり花芽分化をする状態にならない。

対策として一年間肥料をやらない。分化期前に根を傷める。鉢土を乾燥させて鉢土を老化させたりします。

(3) 水やりが原因

鉢花が咲かない、花つきが悪い場合の原因の一つが水やりです。真夏、真冬に水切れさせたり、年間通してやり過ぎによって花芽が飛んでしまう、ロードテンドロン（西洋シャクナゲ）の花飛びの原因です。

(4) 置き場所が原因

光が不足して花芽ができない場合が多い。また低温の場合もあり、アザレヤ、ツツジで花飛がありますので、日の当たる場所へ移し替えます。

(5) 病害の原因

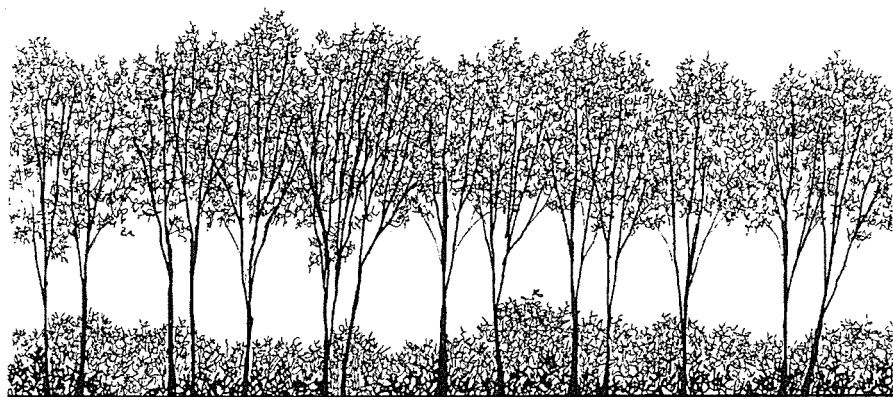
ツツジ、サツキなどに、シンクイムシが発生し、つぼみの中を食害するためつぼみを枯死させますので、殺虫剤を散布します。

Ⅳ そ の 他



東洋でも西洋でも、古くから花にまつわる神話や伝説があり、花の形に思いをよせたり、色や香り花の性質などから湧きでるイメージから、詩文、逸話、故事来歴から花ことばが生まれました。

そのほとんどが、西洋で中世の騎士が愛する女性に贈った無言の意思や感情を伝える言葉が、今に伝えられるようになったものと考えられます。



樹 種	花 言 葉
ア ケ ビ	才能
ア ジ サ イ	移り気、冷たい人
ア セ ビ	犠牲、あなたと二人旅をしましょう
イ チ イ	悲哀、死
イ チ ヨ ウ	鎮魂、長寿、莊嚴
イ ボ タ ノ キ	禁制
ウ メ	忠実、高潔、上品、忍耐、独立
ウ メ モ ド キ	明朗
ウ ル シ	變動に耐えよう
エ ニ シ ダ	謙遜、卑下
オ オ デ マ リ	約束、天国
カ イ ド ウ	大胆、無遠慮
キ イ チ ゴ	嫉妬、後悔、羨望
キ ヨ ウ チ ク ト ウ	深刻な友情、親友（赤）、恵まれた人（白）
ギ ヨ ウ リ ユ ウ	犯罪
キン モ ク セ イ	初恋、謙遜
ク チ ナ シ	清浄、純潔
ク リ	尋常ではない
ク レ マ チ ス	高潔
ゲ ッ ケ イ ジ ユ	名誉、勝利、戦勝の表彰
コ デ マ リ	努力する
コ ノ デ ガ シ ワ	一生変わらぬ友愛
コ ブ シ	友情
サ ク ラ	純潔、淡白、精神美
ザ ク ロ	円熟した優美、子孫の守護
サ ザ ン カ	理想の恋（白）、謙遜（赤）
サ ル ス ベ リ	雄弁
サ ン ザ シ	ただ一つの恋、希望
サ ン シ ユ ウ	持続、耐久
シ デ	装飾
シ モ ツ ケ	無益

樹 種	花 言 葉
シ ャ ク ヤ ク	内気、はじらい、はにかみ、憤怒
シ ュ ロ	勝利
ジ ン チ ョ ウ ゲ	光栄、永遠、不死、快楽を求める。
ス イ カ ズ ラ	友情、献身、愛のきずな
ス ギ	堅固
ス モ モ	忠実、貞節、約束を守って下さい。
セ ン リ ョ ウ	可憐
チ ヤ	追憶
ツ ゲ	克己、禁欲、冷静
ツ ツ ジ	節制、愛する喜び、初恋
ツ タ	美しさが唯一の魅力
ツ バ キ	気どらない優美さ（紅）、申し分ない魅力（白）
ト チ ノ キ	ぜいたく
ナ ナ カ マ ド	用心、慎重
ナ ン テ ン	良き家庭
ニ ン キ ギ	危険なあそび
ニ セ ア カ シ ヤ	友情、親睦
ニ ワ ト コ	あわれみ、同情、熱心
ヌ ル デ	巧妙
ネ コ ヤ ナ ギ	自由
ネ ム ノ キ	歓喜
ハ ギ	想い、思案、内気
ハ ク モ ク レ ン	壮麗
ハ シ バ ミ	仲なおり
ハ ゼ ノ キ	真心
ハ ナ ズ オ ウ	裏切る、疑惑、不信用
バ ラ	愛、恋愛（赤）、純潔（白）、愛の告白（つばみ）、うすれゆく愛（黄）
ハ ル ニ レ	威厳、愛国心
ヒ イ ラ ギ	剛直
ヒ イ ラ ギ ナ ン テ ン	激しい感情
ヒ ノ キ	不死、不滅

樹 種	花 言 葉
ヒ マ ラ ヤ シー グ	強さ (思い切ってあなたのみに生きます。)
フ ジ	恋に酔う、歓迎
フ ヨ ウ	繊細な美
プ ラ タ ナ ス	天才
ボ ケ	熱情
ボ ダ イ ジ ュ	熱情の恋、結婚 (花)、夫婦愛 (樹)
ボ タ ン	はじらい、富貴、壮麗
ポ プ ラ	悲嘆、哀惜、勇気
マ サ キ	厚遇、知恵
マ ツ	不老長寿、慈悲
マ ユ ミ	艶めき
マ ル メ ロ	誘惑
マ ン サ ク	呪文、靈感
ミ ズ キ	耐久力
ム ク ゲ	繊細な美、信念
ム ラ サ キ シ キ ブ	聡明
モ ク セ イ	謙遜
モ ク レ ン	自然への愛、莊嚴、恩恵
モ ミ	時、昇進、高尚
モ ミ ジ	自制、ひかえ目、謹慎、隠退、保存
ヤ ツ デ	分別
ヤ ナ ギ	悲哀、追悼
ヤ ブ コ ウ ジ	明日への幸福
ヤ マ ブ キ	気品が高い、待ちかねる
ユ キ ヤ ナ ギ	田園の幸福
ラ イ ラ ッ ク	初恋の感動
レ ン ギ ヨ ウ	希望、達せられた希望、深情け

古くから、松竹をはじめ、縁起木のよい木とされてきたものがいくつかあります。ゲンをかつぐのではないのですが、よく観察するとそれなりの魅力があるものです。

★ マツ

四季を通じて緑を失わず、老木の姿は気品があります。縁起木でも筆頭格です。

★ タケ

どんな強い風雪にあっても折れることのない強さ、繁殖力の強さ、成長の速さが畏敬の対象になったもの。古来中国でも清雅や風情が愛されてきた。

★ ウメ

生命力が強く、老木になって樹皮一枚だけで生きている姿は崇高です。寒風のなかで、ふくいくとして咲きほころぶ様は感動的です。

★ ナンテン

難を転ずるの語呂合わせもあって、玄関口によく植栽されてきました。葉は解毒作用もあり、料理にも添えられます。

★ センリョウ、マンリョウ

植物分類上は全く関係がないが、縁起のよい名称からであり、寒い冬の庭に、真っ赤な実をつけて彩りを添えてくれます。

★ フクジュソウ

まだ雪も消えやらぬ早春の山野辺に、葉に先立って光り輝やく黄金色の花を咲かせます。正月用の寄せ植えにも使われます。別名「元旦草」ともいいます。

★ ダイダイ

柑橘類の一種で、熟してから一年近く実を落としません。前年の実が自然落下するころには、今年の実が色づきますから年中美しい果実がみられます。

★ ユズリハ

ゴムノキに似た大型の葉を茂らせる常緑樹です。新しい葉が生長するのを待って、古葉が落ちることから名付けられました。

正月のしめ飾りは、ダイダイの実とユズリハの枝をあしらわれるのは、「代々譲る」の語呂にちなんで、一家の繁栄を祈る願いがこめられています。

3

庭と庭木のおもな手入れ

庭の手入れは、一般的に四季おりおりの樹木の剪定や、肥料やり、生垣の刈り込み、芝刈りなどであり、4月から翌年3月までの、主な庭木に対する手入れについて整理してみました。

4月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植 え 付 け、 移 植	(常針) キャラボク、コウヤマキ、コノテガシワ、ヒメコマツ、イトヒバなど。 (常広) シイ、ネズミモチ、ナンテン、イヌツゲ、カナメモチ、モチノキ、モッコク、カシなど。 (落広) カキ、イチョウ、シラカバ、サルスベリ、エニシダ、アジサイ、サクラなど。
挿 し 木	ナンテン、アオキ、カイズカイブキ、イヌマキ、レンギョウ、サルスベリなど。
剪 定 す る も の	ウメ、カイドウ、ジンチョウゲ、アオキ、ヤツデ、コデマリなど。
病 虫 害	うどんこ病の防除は、ジネブ剤。アブラムシ、オビカレハなどをDDVP乳剤で防除をします。
そ の 他	雪吊りの取りはずし、ブドウの皮むき、生垣の修理

5月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植 え 付 け、 移 植	アオキ、カシ類、カナメモチ、ツツジ類、ツバキ、サザンカ、モチノキ、モッコクなど。
整 枝、 剪 定	アセビ、ツバキ、コデマリ、ユキヤナギ、レンギョウ、ニワウメ、ウツギなど。
挿 し 木	ヒバ、カイズカイブキなど。
芽 摘 み	マツのミドリ摘み、カイズカイブキ、ヒバ類など。
薬 剤 散 布	病気の予防に2週間おきに3回くらい殺菌剤を散布。かび類(かび病、さび病、褐斑病など。)にベノミル剤、マンネブ剤が効果がある。
追 肥 (お 礼 肥)	ウツギ、ハナミズキ、ライラックなど

6 月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植 え 付 け、 移 植	落葉樹は行わない。常緑樹も一般に適期でないが、ヤシ類、サツキ、シイなどの一部は可能
整枝、剪定、芽摘み	ヒバ類の芽摘み。下旬以降は常緑広葉樹の整枝、剪定、生垣の刈り込み。
挿 し 木	ツツジ、サツキ類、アジサイ、ハナミズキ、ウツギ、ベニカナメ、ツバキなど
薬 剤 散 布	カイガラムシ、アメリカシロヒトリ、チャドクガなどには、スミチオンかマラソン剤を発生時に集中的に散布。うどんこ病の防除
追 肥（お 礼 肥）	花木は、花の終わった直後に施す。

7 月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
整 枝、 せ ん 定	シイノキ、シラカシ、アラカシ、マテバシイ、ウバメガシ、イヌツゲ、キャラボク、ゲッケイジュ。生垣の刈り込み
挿 し 木	ツバキ、サザンカ、カナメモチ、カイズカイブキ、ヒバ類など
薬 剤 散 布	アメリカシロヒトリ、チャドクガの幼虫、カキノヘタ虫、ツジゲンバイ虫、ハダニ類、赤星病、黒斑病などが発生
マ ル チ ン グ	ツツジ、シャクナゲ類にはピートモスを、バラには堆肥かワラを敷く。
土用干し（鉢物）	ウメやカイドウの花芽のつきをよくするため水を控える（2～3週間）
乾 燥 防 止	一般には水やりの必要はないが、今春植えたものは灌水します。

8月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
移 植	(常広) ツバキ、サザンカ、モチノキ、モッコク、カシ類
整 枝、 剪 定	シイノキ、シラカシ、アラカシ、ウバメガシ、イヌマキ、キャラボク、モッコク、ツバキ、サザンカ、針葉樹など。
挿 し 木	ツバキ、サザンカ、カナメモチ、イヌツゲ、アベリア、ヒバ類など。
薬 剤 散 布	アメリカシロヒトリ、チャドクガの2回目の発生。ハダニ、ツツジゲンバイなど前月に引続き発生する。うどんこ病の防除
乾 燥 防 止	今春植え付け、移植したものは灌水します。
そ の 他	台風前に樹木の支柱補強

9月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植 え 付 け、 移 植	シイノキ、カシ類、ツバキ、サザンカ、モチノキ、モッコクなどの常緑樹、イヌマキ、ヒバ類、カイズカイブキ、ヒマラヤシーダなどの針葉樹、ボケ、ボタン、シャクヤク、シャクナゲ、アメリカハナミズキなど。
挿 し 木	ボケ、ツバキ、サザンカ、クルメツツシなど。
接 ぎ 木	(芽接ぎ) モクレン類、モモ、バラ、サクラなど。(腹接ぎ) カエデなど。
薬 剤 散 布	モッコクハムシが発生する。サツキ、ツツシのシンクイ虫にD D V P乳剤を散布。その他は8月と同じ。
台 風 対 策	枝ぬき。支柱の取り付けなど。
根 回 し	翌春移植したい木は根回しを施し、細根をよくつくっておく。

10月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植 え 付 け、 移 植	針葉樹全般。ウメモドキ、マユミ、ニシキギ、ボタン、シャクヤクなど。
タ ネ の 取 り ま き	ハナミズキ、ナツツバキ、マユミ、ニシキギ、ウメモドキ、コブシ、カリン、カシ類など。
整 枝、 せ ん 定	ウメ、サクラ、カイドウ、ロウバイなど。
挿 し 木	ボケ
根 回 し	翌春移植したい木を行う。
マ ツ の コ モ 巻 き	マツ類につくマツケムシは、冬地面におりて越冬するため幹にコモを巻き、誘い込んで越冬させ春焼却する。

11月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植 え 付 け、 移 植	針葉樹全般。常緑樹は行わない。落葉樹はウメ、カエデ、コブシ、ニワウメ、ムクゲ、フヨウなど。
株 分 け	ボケ、ユキヤナギ、レンギョウなど。
整 枝、 剪 定	カシ類、モチノキ、ウメ、カエデの徒長枝の伸びたもの。生垣の刈り込み。アジサイ、レンギョウの間引き。タケ類の古竹の切り取り。
タ ネ 取 り	カエデ、サルスベリ、ハナミズキ、ムクゲなど。
防 寒 対 策	マツ類、マキ類、カエデなどの雪吊り。サツキ、ツツジなど低木の雪囲いを行う。

12月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植 え 付 け、 移 植	(常緑) コノテガシワ、スギ、ヒバ類、マツなど。(落広) コブシ、ガクアジサイ、ニシキギ、イチヨウなど。(常広) アオキなど。
整 枝、 剪 定	ヒバ類、マツ類の枝すかし。樹形仕立て木の徒長枝、秋芽が伸びたものの刈り込み。ウメ、カエデ、サルスベリ、モクレン、ボケなど。ハギ、フヨウの地際での更新
タ ネ 取 り	カシ類、ナンテン、ピラカンサス、マンリョウ、カエデ、ハナミズキなど。
タ ケ の 整 理	クロチク、マダケ、モウソウチクなど、古株のこんだところの間引き。
防 寒、 耐 雪	マツ類、マキ類、カエデなどの雪吊り、ヤシ、ソテツなどのコモ巻き。
そ の 他	アカマツ、クロマツなどのもみあげ。

1月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植 え 付 け、 移 植	雪がなければ、マツ類、トウヒ類、カエデ類、サクラ類、ハナミズキ、マンサク、ハナモモ、バラなどが可能
整 枝、 剪 定	サクラ類、モクレン類、ハナミズキ、ヤマボウシ、ナツツバキ、カエデ類、シラカバ、ハギ、ブナなどの落葉性の庭木
薬 剤 散 布	カイガラムシの防除は、マシン油乳剤。病気の防除に石灰硫黄合剤を20日おきに3回くらい散布する。サクラのてんぐす病の被害枝の切り取り。冬期こぶ病の防除
防 雪	雪吊り、棚類の防雪
施 肥	花木、実ものに寒肥を施す。

2月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植 え 付 け、 移 植	マツ類、トウヒ類、ヒバ類の針葉樹、落葉性の庭木の植え付け。
整 枝、 剪 定	落葉樹、針葉樹は可能
薬 剤 散 布	カイガラムシ、アブラムシは前月に引続き行う。
挿 し 木	レンギョウ、ユキヤナギ、コデマリ、バラ、ナンテンなどの落葉樹
タ ケ の 整 理	庭に入っている小型のササ、タケの刈り込みや枝の切りつめを行う。
施 肥	花木、実ものに行う。中旬までに終わらせたい。

3月

作業の種類	樹種及び作業のポイント
植 え 付 け、 移 植	落葉樹、針葉樹、タケ、ササ類など
整 枝、 剪 定	落葉樹は上旬までに終わらせる。
挿 し 木	(常緑) タマイブキ、カイズカイブキ、キャラボク、スギなど。 (落広) ユキヤナギ、コブシ、サルスベリ、イチョウ、エニシダなど。(常広) マサキ、ゲッケイジュ、ヒイラギナンテン、ハクチョウゲなど。
薬 剤 散 布	石灰硫黄合剤は樹の芽出し前に行う。
防寒具の取りはずし	マツに幹巻きしたコモなどの焼却。雪吊りの取りはずし。
接 ぎ 木	ウメ、サクラ、フジ、ハナミズキ、バラ、カイドウなど。

参 考 文 献

書 名	著 者	発 行 所
実 用 園 芸 百 科		園芸文化協会
365 日 の 園 芸 百 科		主婦の友社
樹木アートブック (高木編)		アブック社
雪 国 の 植 栽 樹 木 図 鑑		北陸建設弘済会
原 色 樹 木 大 図 鑑		北隆社
園 芸 大 百 科 事 典		講談社
庭 木 1、 2、 3		主婦の友社
庭木のふやし方、育て方	船越亮二	文化出版局
原色庭木盆栽の病虫害の診断		農文協
富 山 の 植 物	進野久五郎	富山文庫
家 庭 の 園 芸		小学館
庭 木 に 緑 化 樹	飯島 亮	誠文堂新光社
富山県道路緑化マニュアル		富山県土木部
雪 国 の 植 栽		北陸建設弘済会
緑化技術ハンドブック		全国林業改良普及協会
と や ま 花 づ く り		花と緑の銀行
花ことばファンタジー	中村俊子	保育社
観 葉 植 物		文研出版
観 葉 鉢 花		山と溪谷社
花 木		山と溪谷社
植 木 100 種 の 剪 定		日本放送協会
緑 化 樹 木 の 病 害 虫	上 小林 亨夫 下 小林富士夫	日本林業技術協会

さ く い ん

樹 木 名	ページ	樹 木 名	ページ	樹 木 名	ページ
ア オ キ	127	シャリンバイ	147	ボ ケ	156
ア オ ギ リ	78	シ ラ カ バ	93	ボ タ ン	157
ア ジ サ イ	140	ジンチョウゲ	135	ボ ブ ラ	103
ア ベ リ ア	141	ス ギ	70	マ キ 類	74
イ チ イ	68	ソ テ ツ	166	マ サ キ	136
イ チ ョ ウ	111	タイザンボク	62	マ ツ 類	75
イ ヌ ツ ゲ	128	タ ブ ノ キ	65	マ ユ ミ	159
ウ ツ ギ	129	ツ ガ	71	ム ク ゲ	125
ウ メ	79	ツ ツ ジ	149	ムラサキシキブ	160
ウ メ モ ド キ	121	ツ バ キ 類	63	メ タ セ コ イ ヤ	112
エ ニ シ ダ	142	ドウダンツツジ	148	モ ク レ ン	105
エ ン ジ ュ	81	ト チ ノ キ	94	モ チ ノ キ	66
オ オ デ マ リ	122	ナ ツ ツ バ キ	95	モ ッ コ ク	106
カイズカイブキ	69	ナ ナ カ マ ド	96	ヤ ツ デ	137
カ エ デ 類	82	ナ ン テ ン	152	ヤ ナ ギ 類	107
カ ク レ ミ ノ	113	ニ シ キ ギ	153	ヤ マ ブ キ	161
カ シ 類	58	ニセアカシヤ	97	ヤ マ ボ ウ シ	109
キョウチクトウ	130	ネ ズ ミ モ チ	118	ユ キ ヤ ナ ギ	162
キン シ バ イ	143	ハイビャクシン	138	ユ ズ リ ハ	67
キンモクセイ	114	ハ ギ	154	ユ リ ノ キ	110
ク チ ナ シ	131	ハ ク チ ョ ウ ゲ	155	ラ イ ラ ッ ク	163
ケ ヤ キ	85	ハ ナ カ イ ド ウ	123	レ ン ギ ョ ウ	165
ゲッケイジュ	115	ハ ナ ズ オ ウ	124		
コ デ マ リ	144	ハ ナ ミ ズ キ	98		
コノテガシワ	120	バ ラ	168		
コ ブ シ	86	ハ ル ニ レ	99		
サ ク ラ 類	88	ヒ サ カ キ	119		
サ ザ ン カ	116	ヒ ノ キ	72		
サル ス ベ リ	91	ヒマラヤシーダー	73		
シ イ ノ キ	61	フ ウ ノ キ	100		
シ ジ ミ バ ナ	145	フ ジ	170		
シ モ ツ ケ	146	プ ラ タ ナ ス	101		
シャクナゲ	132	ホ オ ノ キ	102		

●編集委員の方々

委員長	笹 倉 慶 造	県自然保護協会事務局長
委 員	金 岡 トモ子	富山女子短期大学助教授
〃	加 茂 正 三	県緑化造園土木協会副会長
〃	高 木 直 秋	県立中央農業高等学校教諭
〃	平 一 敏	県農地材務部農林管理課長
〃	横 江 敏 郎	(財)花と緑の銀行専務理事

●執筆していただいた方々 (五十音順 敬称略)

石 崎 力	県立有磯高等学校長
岡 本 益 男	県立中央農業高等学校教諭
桐 林 秀 雄	県林業試験場造林課長
久 郷 正 基	久郷一樹園主
高 木 直 秋	県立中央農業高等学校教諭
前 田 光 春	県立中央農校高等学校教諭
安 田 洋	県林業試験場経営特産課主任研究員
牧 野 光 六	マキノカメラ園主
野 上 寿 明	晴香園主

●写真を提供していただいた方々

幡 谷 広 司
山 本 和 雄
稲 盛 寛

編集後記

かねてから当銀行では、グリーンキーパーの活動の手引書として、花や緑のハンドブックの作成に対しての要望が多く、その必要性を痛感していました。

緑に関しては、本県は積雪地帯という気象的な悪条件下にあり、緑化樹の生産量も少なく、また緑化技術も手さぐりの状態にあります。県内の緑化関係の先達にお願いし、分担して作成しました。

何分にも単年度で作成しなければならず、写真、その他資料の収集に苦労いたしましたが、ようやく発行するまでにこぎつけました。

この冊子の作成に当たり、編集委員および、執筆者の方々に多大の御苦勞をおかけいたしました。心からお礼を申し上げます。
(山崎)

とやま緑づくり

発 行 財団 花と緑の銀行
法人
富山県婦負郡婦中町上轡田42
電 話 (0764) 66-2425

印 刷 株式会社チューエツ
富山市上赤江町2丁目8-6
電 話 (0764) 32-4171
